Santen

第4回日本視野学会学術集会 ランチョンセミナー4

JPS

緑内障の視野のブレークスルー

日時 **2015年5月31日(日)**
11:55～12:55

会場 **第1会場**
金沢市文化ホール 1F 大ホール

座長
稲谷 大 先生
(福井大学)

緑内障の進行を評価する方法としては、視野と視神経の所見の2つの評価項目があり、現在の緑内障診療では、視野は自動視野計を用いた定量的な評価を行い、視神経の所見は、OCTを用いた評価法を行うことが主流です。これら2つの評価法には、緑内障の病期によって得意不得意があり、うまく使い分けることによって、緑内障進行を正しく判定することができることがわかってきました。また、最近の新しい研究では、視野のプログラムを使い分けたり、OCTのデータの解析法を工夫することによって、これら2つの評価方法で不得手だと思われていた病期でも進行が判定できることがわかってきています。

緑内障診療において視野検査が重要であることは言うまでもありません。ハンフリー静的視野検査の24-2や30-2を使うのが基本ですが、検査点がまばらであり中心視野の評価には10-2をうまく活用することが重要です。視野検査には時間と労力を要するため効率的に行いたいものです。OCTを併用して視野検査を効率的に行う方法について、赤木先生からお話しいただきます。

最近ではOCTが技術発展し、浸透したことから、pre-perimetric glaucoma (PPG) が話題になっています。PPGと診断された症例の、視野の"異常"をどのように考え、どのように対処するのか、治療が望ましい場合には、何を重視して治療方法を選択するか、臨床現場に即した考え方について、石田先生にお話しいただきます。

個人差が大きく、また個々に加療も異なっている患者において、将来の視野を予測するのは非常に困難です。そのような中、視野データを臨床医の知見・経験を反映させるように数式に落とし込み、柔軟に統計処理することで示される"将来の視野の最もなりそうな形"を用いて、治療を最適化できる可能性について研究が進んでいます。この新しい技術について、朝岡先生からお話しいただきます。

3人の視野研究のエキスパートの先生のご講演をわかりやすく噛み砕いて解説していただけるように、福地健郎先生と相原一先生の豪華メンバーをコメンテーターとしてお招きいたしました。ご参加いただいた先生方に、視野の最前線の知識を吸収できる有意義なセミナーを企画いたしましたので、是非ご参加よろしくおねがいいたします。

コメンテーター

福地 健郎 先生
(新潟大学)

相原 一 先生
(東京大学)

演者1

視野検査とOCTの活用

赤木 忠道 先生
(京都大学)

演者2

PPGの発見と治療

石田 恭子 先生
(東邦大学)

演者3

視野進行予測を利用した緑内障治療の可能性

朝岡 亮 先生
(東京大学)

共催：第4回日本視野学会学術集会・参天製薬株式会社

第4回日本視野学会学術集会 ランチョンセミナー4

緑内障の視野のブレークスルー

Santen

日時 2015年 5月31日（日） 11:55～12:55

会場 第1会場 金沢市文化ホール 1F 大ホール

座長

稲谷　大 先生（福井大学）

1995年 京都大学 卒業
1996年 岸和田市民病院 研修医
1997年 京都大学大学院生
2000年 京都大学 助教
2001年 米国バーナム研究所 客員研究員
2003年 大阪赤十字病院 眼科
2005年 熊本大学 助教
2006年 熊本大学 講師
2011年 福井大学 医学部 眼科 教授
現在に至る

コメンテーター

福地 健郎 先生（新潟大学）

1985年 新潟大学 医学部 卒業
1991年 新潟大学大学院 修了
新潟大学附属病院 助手
1992年 シカゴ･イリノイ大学 留学
1995年 新潟大学附属病院 助手
2005年 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 講師
2012年 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 教授
現在に至る

相原　一 先生（東京大学）

1989年 東京大学 医学部 医学科 卒業
1990年 東京大学 医学部 眼科学教室 文部教官 助手
1998年 東京大学大学院 生化学細胞情報部門 卒業 医学博士
東京大学 医学部 眼科学教室 文部教官 助手
2000年 カリフォルニア大学サンディエゴ校 緑内障センター 臨床指導医
2001年 カリフォルニア大学サンディエゴ校 緑内障センター 主任研究員
2003年 東京大学 医学部 眼科学教室 医学部専任講師
2012年 東京大学 医学部 眼科学教室 准教授
四谷しらと眼科 副院長
2014年 東京医科歯科大学 医学部 眼科学教室 特任教授 兼任
2015年 東京大学 医学部 眼科学教室 教授
現在に至る

演者1

視野検査とOCTの活用

赤木 忠道 先生（京都大学）

1998年 東北大学 医学部 卒業
京都大学大学院 医学研究科 眼科学 入局
2004年 京都大学大学院 医学研究科 修了
天理よろづ相談所病院 眼科
2010年 京都大学大学院 医学研究科 眼科学 助教
2013年 京都大学大学院 医学研究科 眼科学 講師
現在に至る

演者2

PPGの発見と治療

石田 恭子 先生（東邦大学）

1995年 富山医科薬科大学 医学部 卒業
2001年 岐阜大学 医学部 助手、医学博士
2002年 岐阜大学 医学部 講師
米国マイアミ大学 バスコムパルマー眼研究所 留学
2004年 米国テネシー州立大学 ハミルトン眼研究所 留学
2005年 岐阜大学 医学部 講師
2008年 岐阜県総合医療センター 部長代理
2012年 岐阜大学 医学部 講師
2014年 東邦大学医療センター大橋病院 准教授
現在に至る

演者3

視野進行予測を利用した緑内障治療の可能性

朝岡　亮 先生（東京大学）

1996年 東京医科大学 医学部 医学科 卒業
東京医科大学 眼科
2002年 浜松医科大学 眼科
2006年 日本学術振興会 特定国派遣研究員
（Moorfields Eye Hospital（英国））
2008年 Moorfields Eye Hospital
及び City University London（英国）
2012年 東京大学 眼科
現在に至る